

おおさきの歴史を旅してみませんか③
 失われた修験者たちの聖域（飯隈地区）



『大崎名勝誌』には、和銅元年（708

年）に修験道開祖 役小角の弟子である義覚がこの地によつてきて、飯隈山を開山し、新熊野三社権現を勧請し、本地阿弥・薬師・観音の三尊を安置したことが由来と記されています。また、天平15年（743年）に聖武天皇の勅願所の宣旨を受け、神領の地二千石を支給されたとも伝えられています。中世以降も本山脈修験の京都天台宗聖護院の末寺として、聖護院や金護家などの中央勢力や、島津各代の藩主と深く関わり南九州の修験道場として君臨しました。

しかし廃仏毀釈で飯隈山の寺院は破壊し尽され、長く続いた聖域は完全に失われてしまいました。



4 飯隈山照信院本社跡

飯隈寺照信院本社があったとされる場所には、現在『熊野神社』として社が建てられている。

昭和54年に畑から発見された正観音像と如意輪観音像が安置されている。

3 仁王像

飯隈寺照信院の門前にあったが、明治初期の廃仏毀釈で破壊された。地元の人々によって復元されたが、阿像の首は発見されていない。鎌倉時代の作と推測される。

昭和51年に町指定化。

2 飯福寺の石塔群

長年野積されていたものを昭和58年に調査し、宝塔21基、宝篋印塔9基、五輪塔53基、残欠相輪48基、空風輪130基、板費3基が確認された。一部を復元し、昭和59年町指定となる。

1 若一神社

永禄13年（1570年）に建立。祭神は、切目王子。大崎郷の三の宮で、本殿に丸に十の文様があることから、島津氏との関わりも想定される。

